

第3次八幡浜市子ども読書活動推進計画

八幡浜市教育委員会

目次

第1章 計画策定の趣旨	1
1 計画策定の背景	1
2 計画の対象と期間	1
第2章 子どもの読書の現状（アンケート結果）	2
1 保育所・幼稚園	2
2 小学生	4
3 中学生	7
4 小・中・高等学校	10
第3章 子どもの読書活動を推進するための施策	11
1 家庭・地域における子ども読書活動の推進	11
(1) 役割	
(2) 現状と課題	
(3) 施策の方向	
2 保育所・幼稚園における子ども読書活動の推進	12
(1) 役割	
(2) 現状と課題	
(3) 施策の方向	
3 学校における子ども読書活動の推進	12
(1) 役割	
(2) 現状と課題	
(3) 施策の方向	
4 図書館における子ども読書活動の推進	14
(1) 役割	
(2) 現状と課題	
(3) 施策の方向	

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の背景

(1) 国の動向

- 平成 13 年 12 月 「子どもの読書活動の推進に関する法律」制定
- 平成 14 年 8 月 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定
(第 1 次基本計画)
- 平成 20 年 3 月 第 2 次基本計画策定
- 平成 25 年 5 月 第 3 次基本計画策定
- 平成 30 年 4 月 第 4 次基本計画策定

(2) 県の動向

- 平成 16 年 3 月 「愛媛県子ども読書活動推進計画」(第 1 次計画) 策定
- 平成 21 年 3 月 第 2 次計画策定
- 平成 26 年 3 月 第 3 次計画策定
- 平成 31 年 3 月 第 4 次計画策定

(3) 八幡浜市の動向

- 平成 21 年 「八幡浜市子ども読書活動推進計画」(第 1 次計画) 策定
- 平成 28 年 第 2 次計画策定

八幡浜市では、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、国及び県の計画を基本として八幡浜市子ども読書活動推進計画を策定し、子どもの読書活動を推進してきました。第 2 次計画の期間が令和 3 年 3 月に終了するため、取組の成果や課題を踏まえた上で子どもの読書活動をより推進することを目的とした第 3 次計画を策定します。

2 計画の対象と期間

八幡浜市子ども読書活動推進計画は、0 歳から概ね 18 歳までの子どもを対象とし、期間は令和 3 年(2021 年)4 月～令和 8 年(2026 年)3 月までの 5 年間とします。

第2章 子どもの読書の現状（アンケート結果）

第3次計画を策定にあたり、八幡浜市内での子どもの読書に関する現状を把握するため、第2次計画策定の際に実施したアンケート（平成27年7月）を基にしたアンケートを令和2年11月に実施しました。

1 保育所・幼稚園

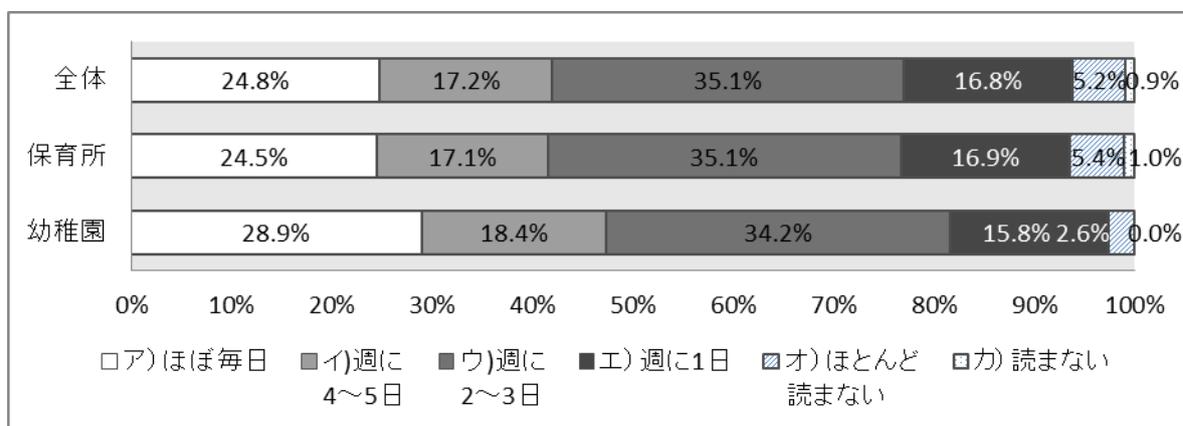
(1) 本を読むことについて

調査年度	本を読む（聞く）のが好き	本を読む（聞く）のが好きではない
H27	505人 (93.9%)	33人 (6.1%)
R2	591人 (92.8%)	46人 (7.2%)

本を読む（聞く）ことが好きな子ども割合は、前回調査と比較すると微減しています。

(2) 1週間で本を読む頻度について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に4～5日	ウ) 週に2～3日	エ) 週に1日	オ) ほとんど読まない	カ) 読まない
H27	114人 (20.9%)	78人 (14.3%)	227人 (41.7%)	94人 (17.2%)	28人 (5.1%)	4人 (0.7%)
R2	137人 (24.8%)	95人 (17.2%)	194人 (35.1%)	93人 (16.8%)	24人 (5.2%)	5人 (0.9%)

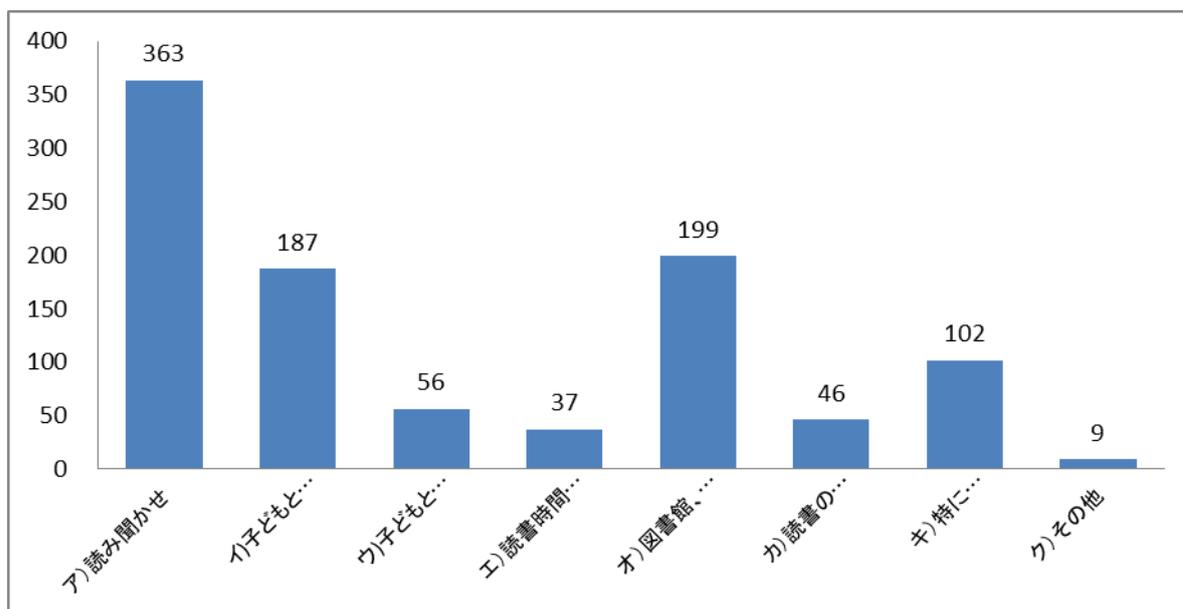


（令和2年度）

1週間で本を読む頻度は、前回調査と比較すると「週に2～3日」、「週に1日」の割合が減少し、「ほぼ毎日」、「週に4～5日」の割合が増加しています。全体的に読書をする親子が増加しています。

(3) 読書を促すための家庭での取組について（複数回答可）

調査年度	ア) 読み聞かせ	イ) 子どもと一緒に読書	ウ) 子どもと同じ本を読書	エ) 読書時間の設定
H27	361人 (36.2%)	197人 (19.8%)	74人 (7.4%)	28人 (2.8%)
R2	363人 (36.3%)	187人 (18.7%)	56人 (5.6%)	37人 (3.7%)
調査年度	オ) 図書館、書店へ行く	カ) 読書の感想を聞く	キ) 特にしていない	ク) その他
H27	191人 (19.2%)	36人 (3.6%)	96人 (9.6%)	13人 (1.3%)
R2	199人 (19.9%)	46人 (4.6%)	102人 (10.2%)	9人 (0.9%)



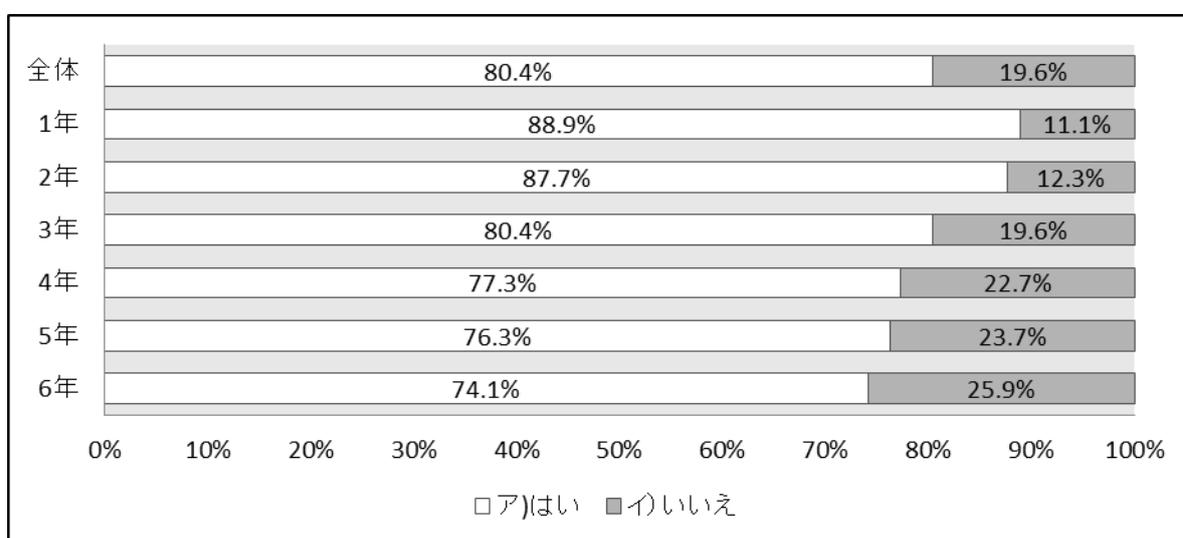
(令和2年度)

読書を促すための家庭での取組は、前回調査と比較して全体的な傾向に大きな変動は見られませんでした。しかし、「特に何もしていない」家庭の割合が10.2%に増加しているため、引き続き家庭に対する読書活動の啓発が必要です。

2 小学生

(1) 本を読むことについて

調査年度	本を読む（聞く）のが好き	本を読む（聞く）のが好きではない
H27	1,278 人 (84.4%)	236 人 (15.6%)
R2	1,051 人 (80.4%)	257 人 (19.6%)

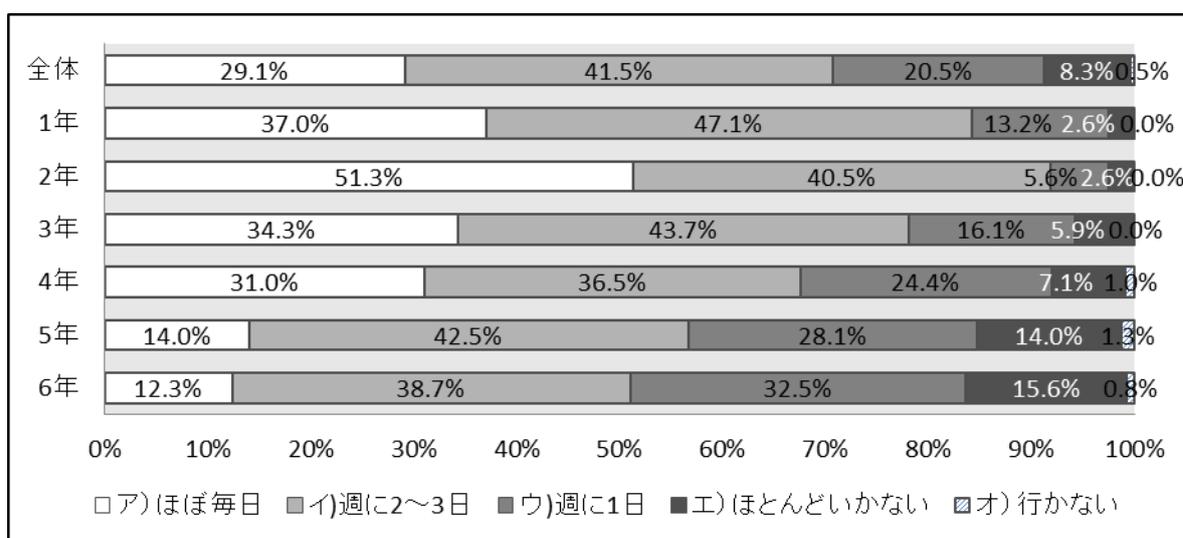


(令和2年度)

本を読む（聞く）ことが好きな児童の割合は、前回調査と比較すると減少しています。また、学年が上がるにつれて読書を好まない児童が増加しています。読書に対して興味を持たせる、苦手意識をなくすような対策が必要です。

(2) 学校図書館の利用について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に 2～3日	ウ) 週に 1日	エ) ほとんど 行かない	オ) 行かない
H27	469人 (31.0%)	537人 (35.5%)	282人 (18.6%)	211人 (13.9%)	15人 (1.0%)
R2	380人 (29.1%)	542人 (41.5%)	268人 (20.5%)	109人 (8.3%)	7人 (0.5%)

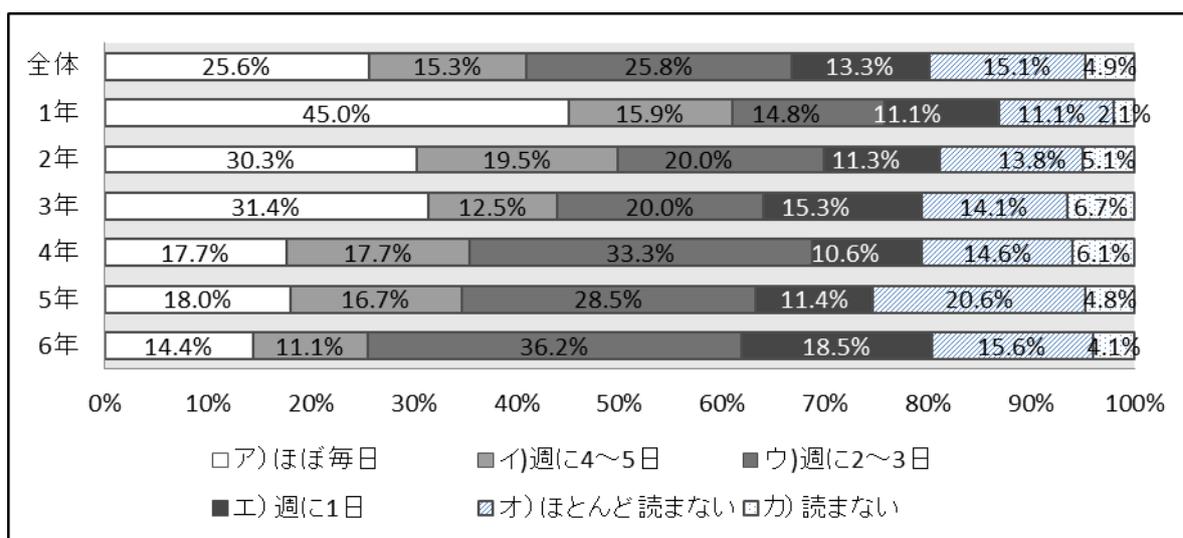


(令和2年度)

学校図書館の利用は、前回調査と比較すると「ほぼ毎日」が減少しています。しかし、「ほとんど行かない」、「行かない」も減少し、「週に2～3日」、「週に1日」が増加しており、全体的には、利用頻度が増加しています。また、「ほぼ毎日」利用する児童の割合は、学年が上がるにつれて減少しています。

(3) 1週間で本を読む頻度について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に 4～5日	ウ) 週に 2～3日	エ) 週に 1日	オ) ほとんど 読まない	カ) 読まない
H27	504人 (33.3%)	260人 (17.2%)	293人 (19.4%)	201人 (13.3%)	175人 (11.6%)	79人 (5.2%)
R2	335人 (25.6%)	200人 (15.3%)	337人 (25.8%)	174人 (13.3%)	198人 (15.1%)	64人 (4.9%)



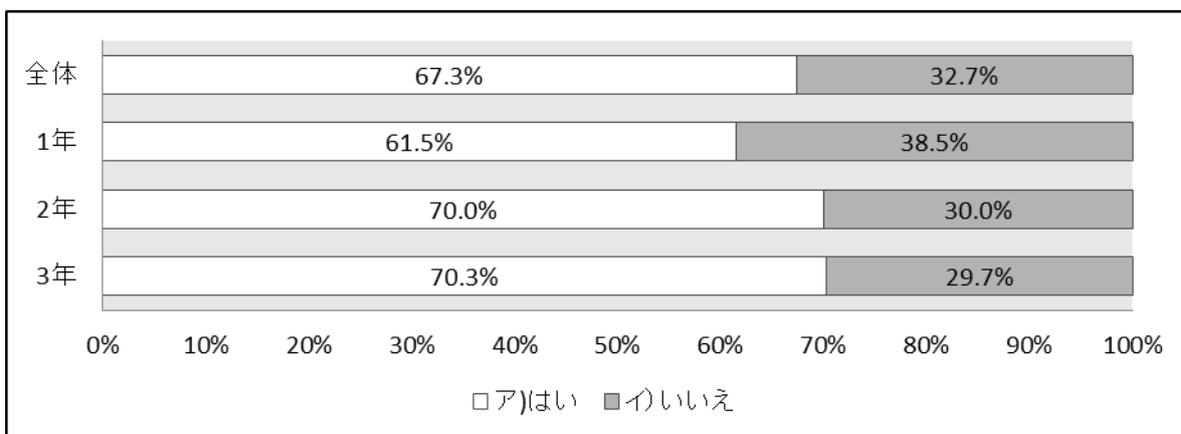
(令和2年度)

1週間で本を読む頻度は、前回調査と比較すると「ほぼ毎日」、「週に4～5日」、「読まない」が減少し、「週に2～3日」、「ほとんど読まない」が増加しています。全体的に本を読む頻度が減少しています。特に、学年が上がるにつれて「ほぼ毎日」読書する児童の割合が減少しています。

3 中学生

(1) 本を読むことについて

調査年度	本を読む（聞く）のが好き	本を読む（聞く）のが好きではない
H27	667 人 (76.6%)	204 人 (23.4%)
R2	468 人 (67.3%)	227 人 (32.7%)

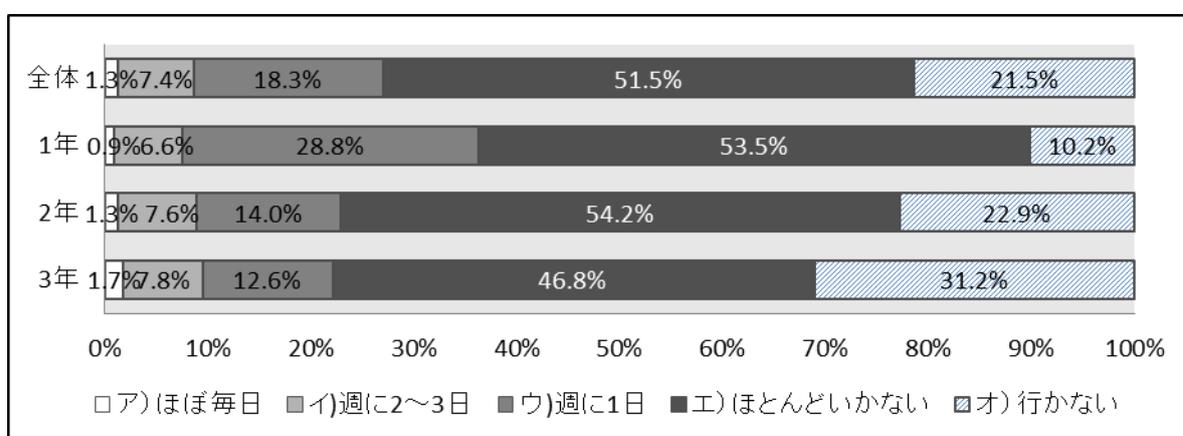


(令和2年度)

本を読む（聞く）ことが好きな生徒の割合は、前回調査と比較すると減少しています。また、学年が上がるにつれて読書を好まない生徒が増加しています。

(2) 学校図書館の利用について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に 2～3日	ウ) 週に 1日	エ) ほとんど 行かない	オ) 行かない
H27	50人 (5.7%)	140人 (16.0%)	191人 (21.9%)	326人 (37.3%)	166人 (19.0%)
R2	9人 (1.3%)	51人 (7.4%)	127人 (18.3%)	357人 (51.5%)	149人 (21.5%)

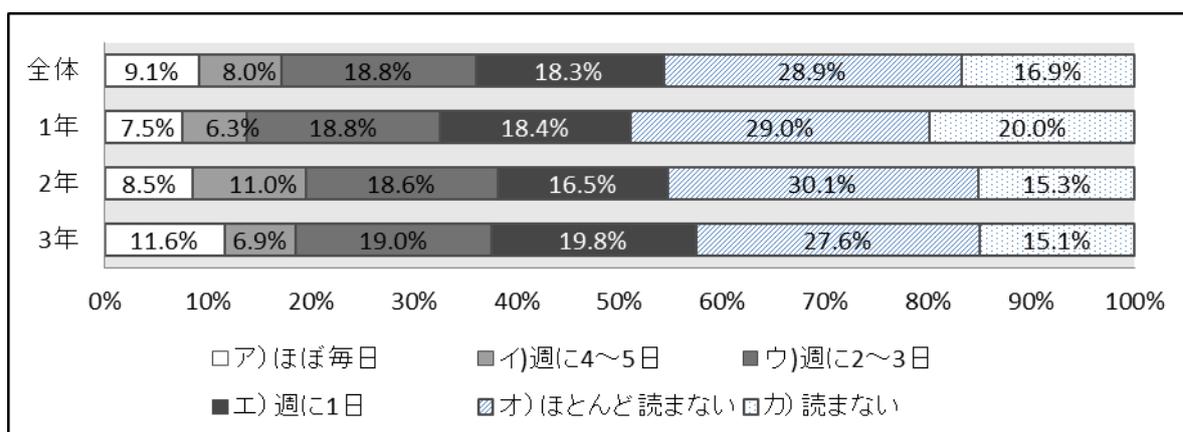


(令和2年度)

学校図書館の利用は、前回調査と比較すると「ほぼ毎日」、「週に2～3日」が大きく減少し、「ほとんど行かない」、「行かない」が増加しています。全体的に利用頻度が減少しています。

(3) 1週間で本を読む頻度について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に 4～5日	ウ) 週に 2～3日	エ) 週に 1日	オ) ほとんど 読まない	カ) 読まない
H27	144人 (16.5%)	92人 (10.5%)	198人 (22.7%)	150人 (17.2%)	175人 (20.0%)	114人 (13.1%)
R2	66人 (9.1%)	58人 (8.0%)	136人 (18.8%)	132人 (18.3%)	209人 (28.9%)	122人 (16.9%)



(令和2年度)

1週間で本を読む頻度は、前回調査と比較すると「ほぼ毎日」、「週に4～5日」、「週に2～3日」が減少し、「週に1日」、「ほとんど読まない」、「読まない」が増加しています。全体的に本を読む頻度が減少しています。

4 小・中・高等学校（小学校 12 校、中学校 5 校 (H27 年度:7 校)、高等学校 3 校)

(1) 学校図書館専任職員配置状況について

調査年度	小学校	中学校	高等学校
H27	0 校 (0%)	0 校 (0%)	0 校 (0%)
R2	0 校 (0%)	0 校 (0%)	0 校 (0%)

(2) 朝読書実施状況について

調査年度	小学校	中学校	高等学校
H27	11 校 (91.7%)	7 校 (100%)	3 校 (100%)
R2	12 校 (100%)	5 校 (100%)	3 校 (100%)

(3) 読み聞かせ実施状況について

調査年度	小学校	中学校	高等学校
H27	12 校 (100%)	2 校 (28.6%)	1 校 (33.3%)
R2	12 校 (100%)	2 校 (40%)	1 校 (33.3%)

学校図書館の専任職員配置はなく、今後も配置は難しいと思われます。

(小・中学校では、7 学級以上の学校に司書教諭を配置しています。)

朝読書はすべての学校で実施、読み聞かせは全小学校で実施されています。

学校図書館は、「図書館資料を児童生徒や教員の利用に供することにより学校教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の健全な教養を育成すること」を目的としています。学校図書館の充実には蔵書・人材の双方の充実が求められます。

第3章 子どもの読書活動を推進するための施策

1 家庭・地域における子ども読書活動の推進

(1) 役割

「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、「子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠かせないものである」と定められています。

読書活動を習慣化するためには、乳幼児期から子どもの発達にあわせた読書への働きかけを推進することが重要です。子どもが最初に本と出会う場所は、家庭です。家庭での読み聞かせは、親子のつながりを深め、子どもの健やかな成長を育みます。子どもの身近に本がある環境を整えたり、読み聞かせの体験を通して、読書習慣を身につけることができます。

(2) 現状と課題

ブックスタート事業は、4ヶ月の赤ちゃんを対象に絵本を2冊プレゼントして絵本を通して子どもと保護者の心温まる時間が持てるよう家庭を支援しています。

セカンドブック事業は、3歳児を対象に絵本を1冊プレゼントして親子の触れ合いを深め、読書習慣の定着づくりをしています。

児童センターや公民館などの各施設に訪問して、読み聞かせボランティアとともにおはなし会を実施しています。

読み聞かせボランティアは両図書館で活動しています。

(市民図書館…あいうえおはなし会、保内図書館…ゆめいろぼけっとおはなし会)

(3) 施策の方向

○保護者に対する読書活動への理解の促進を図ります。

○家庭での読み聞かせを推進します。

家庭や地域において、子どもが読書に親しむ環境をつくるためにさまざまな機会を通じて、保護者等に読書活動の重要性を啓発します。

ブックスタート事業及びセカンドブック事業において、保護者への読み聞かせの楽しさや大切さを伝え、図書館の利用に繋がります。

児童センターや公民館などの各施設と引き続き連携・協力し、本に触れる機会を増やします。

○読み聞かせボランティア団体の活動を支援します。

読み聞かせの技術を向上させる研修会の開催や、新たな会員の募集を周知し、読み聞かせボランティア団体の活動を支援します。

2 保育所・幼稚園における子ども読書活動の推進

(1) 役割

この時期の読書活動は、言葉の理解や知識の習得に必要であり、豊かな想像力や感性を育むことができます。読書に親しめる環境づくりを保護者に働きかけることも必要です。

(2) 現状と課題

幼稚園・保育所では、絵本の読み聞かせが日常の教育・保育活動の一環として行われています。

アンケートから、ほとんどの乳幼児は本を読むのが好き 92.8%(P2)であり、家庭では様々な読書を促すための取組をしています。前回の調査結果と大きな変化もありません。多くの家庭で、読み聞かせの意義が理解されているようです。

しかし、読書を促すための取組を「特に何もしていない」家庭が 10.2%(P3)あるため、引き続き読書活動の啓発が必要になります。

(3) 施策の方向

○保護者に対する読書活動への理解の促進を図ります。

○家庭での読み聞かせを推進します。

子どもが本に親しめるよう読み聞かせを継続します。

家庭での読み聞かせの大切さを保護者に啓発します。

○幼稚園・保育所と市立図書館の連携を深めます。

幼稚園・保育所と市立図書館の連携を深め、読書活動の情報を交換します。

大型絵本の貸出や団体貸出を行います。

3 学校における子ども読書活動の推進

(1) 役割

学校は子どもが多く時間を過ごす場所であり、読書習慣の基礎を作るうえで大きな役割を担っています。子どもたちが読書の楽しさを知り、生涯にわたって本に親しむには、子どもたちの成長に応じた読書活動の機会や環境を提供

することが大切です。

(2) 現状と課題

各小・中学校の学校図書館主任で構成されている学校図書館部会では、読書感想文コンクールや読書感想画コンクールを実施するなど、日常の読書指導の充実を図るための研修を実施しています。

また、各小・中学校においては、学校図書館の蔵書の更新、図書委員会によるポップ作成などの活動、さまざまな教科での図書利用、読み聞かせ、朝読書活動などにより、読書習慣の定着に努めています。

アンケートから、学校図書館の利用について「ほぼ毎日利用している」小学生は全体の 29.1% (P5) ですが、中学生になると全体の 1.3% (P8) へ、「週に 2~3 日利用している」小学生は全体の 41.5% (P5) ですが、中学生になると全体の 7.4% (P8) へそれぞれ激減します。

一方、学校図書館を利用していない小学生は、全体の 0.5% (P5) であるのに対し、中学生は 21.5% (P8) にのぼります。

小学生と中学生の間に大きな開きがみられる傾向は、平成 27 年度の調査から変化がありませんでした。児童書から YA 図書（一般書）に切り替わる年齢に応じた本との出会いの場や機会を創出する必要があります。

また障がいのある子どもへの読書機会の充実が必要です。

(3) 施策の方向

- ブックトーク事業や団体貸出制度などの図書館サービスを周知し、小・中学校と市立図書館の連携を深めます。
 - 図書館見学、職場実習などを受け入れます。
 - 図書館が小・中学校へ訪問するみかんぽんぽん文庫や出張図書館を実施し、図書館利用の拡大に努めます。
 - 読み聞かせ・朝読書で小・中学校を訪問し、読書の楽しさを伝えます。
 - 調べ学習などで図書館資料を貸出して、学校を支援します。
- 週に一度も読書をしない小学生の 4.9% (P6)、中学生の 16.9% (P9) が減るように努めます。
 - 子どもの読書週間行事や夏休み読書マラソンなどのイベントで図書館利用の拡大に努めます。
 - 読書を好まない子どもが興味を持つような図書の購入に努めます。

4 図書館における子ども読書活動の推進

(1) 役割

図書館は、子どもにとって多くの本と出会い、読書の楽しさを知り、知識や情報を得ることができる場所です。

読書活動の推進拠点として、すべての子どもが本に親しみ、楽しむことができるよう、子どもが利用しやすい環境の整備に努める必要があります。

(2) 現状と課題

表1は、蔵書数に占める児童書数及びYA*図書数の割合を示しています。市民図書館は平成30年度にYA図書コーナーを開設しました。両図書館ともに児童書及びYA図書の所蔵は、年々増加しています。各年代の子どもが興味・感心を高められるよう今後も児童書及びYA図書の積極的な購入が必要になります。

表1 蔵書数に占める児童書数及びYA図書数の割合

年度		H27	H28	H29	H30	R1
市民図書館	蔵書数(A)	178,671	178,841	182,748	186,777	190,824
	児童書数(B)	44,769	44,893	45,901	46,755	48,223
	YA図書数(C)	-	-	-	1,102	1,183
	蔵書数に占める 児童書数及びYA図書数 の割合((A+B)/C)	25.1%	25.1%	25.1%	25.6%	25.9%
保内図書館	蔵書数	92,993	94,522	95,425	96,569	98,435
	児童書数	29,342	30,064	31,077	31,896	32,624
	YA図書数	4,274	4,121	4,326	4,471	4,666
	蔵書数に占める 児童書数及びYA図書数 の割合	36.1%	36.2%	37.1%	37.7%	37.9%

※YA（ヤングアダルト）：中高生を中心とした10代の世代

表 2. 年齢別実利用割合から、平成 25 年度と令和元年度の実利用割合を比較すると 6 歳以下が大きく増加しています。これはブックスタート時に、図書館利用者登録をすすめている影響が大きいと思われます。中学生を境にして実利用割合が減少しているため、YA 図書のさらなる充実や中高生をターゲットにしたイベントを開催するなどの対策が必要です。

表 2 年齢別実利用割合

年齢	調査年度	実利用人数	人口 (H25. 3. 31) (R2. 3. 31)	実利用割合
6 歳以下	H25	286	1, 562	18. 3%
	R1	337	1, 248	27. 0%
7～9 歳	H25	411	768	53. 5%
	R1	362	647	56. 0%
10～12 歳	H25	453	851	53. 2%
	R1	355	718	49. 4%
13～15 歳	H25	264	942	28. 0%
	R1	202	777	26. 0%
16～18 歳	H25	157	1, 010	15. 5%
	R1	99	782	12. 7%
合計	H25	1, 571	5, 133	30. 6%
	R1	1, 355	4, 172	32. 5%

表 3. 団体貸出利用冊数によると、団体貸出の利用が年々増加しています。平成 30 年から、市民図書館はみかんぽんぽん文庫事業を実施、保内図書館は巡回絵本事業を実施しており、大きく貸出数が増加しています。今後は団体貸出の利用者を図書館の利用者につなげる工夫が求められます。

表 3 団体貸出利用冊数

年度	H27	H28	H29	H30	R1
市民図書館	1, 155	1, 638	2, 400	3, 212	3, 409
保内図書館	2, 053	2, 052	2, 103	2, 532	2, 461
合計	3, 208	3, 690	4, 503	5, 744	5, 870

※図書館、相互貸借を除く

表 4. 市内小学生の市立図書館利用者カード登録者数によると、市内小学校で登録率 50%を下回っている学校数は、平成 27 年の 3 校から令和 2 年度の 2 校に減少しました。

表 5. 市内小学生の利用図書館人数では、平成 27 年度調査と令和 2 年度調査を比較して、10%以上増加した箇所を薄い色、減少した箇所を濃い色で着色しています。

表 4 及び表 5 から図書館から遠方にある小学校の児童は潜在的な需要が見込めるため、移動図書館の積極的な PR に努めます。

表4 市内小学生の市立図書館利用者カード登録者数

調査年度	選択肢	全体	松蔭	白浜	江戸岡	神山	千丈	日土	真穴	川上	双岩	喜須来	川之石	宮内
H27	ア)はい	947	95	134	91	120	68	37	18	14	25	81	90	174
		62.5%	73.1%	66.7%	61.5%	54.3%	46.9%	61.7%	40.9%	36.8%	54.3%	58.7%	78.9%	76.0%
R2	ア)はい	853	80	106	83	106	66	52	16	11	22	103	63	145
		65.3%	69.0%	70.7%	58.9%	56.4%	60.0%	67.5%	35.6%	42.3%	66.7%	71.5%	69.2%	78.4%
H27	イ)いいえ	567	35	67	57	101	77	23	26	24	21	57	24	55
		37.5%	26.9%	33.3%	38.5%	45.7%	53.1%	38.3%	59.1%	63.2%	45.7%	41.3%	21.1%	24.0%
R2	イ)いいえ	453	36	44	58	82	44	25	29	15	11	41	28	40
		34.7%	31.0%	29.3%	41.1%	43.6%	40.0%	32.5%	64.4%	57.7%	33.3%	28.5%	30.8%	21.6%

表5 市内小学生の利用図書館人数

調査年度	選択肢	全体	松蔭	白浜	江戸岡	神山	千丈	日土	真穴	川上	双岩	喜須来	川之石	宮内
H27	ア)市民	635	100	132	85	126	78	19	9	13	22	11	11	38
		67.1%	105.3%	98.5%	93.4%	105.0%	114.7%	51.4%	50.0%	92.9%	88.0%	13.6%	12.2%	21.8%
R2	ア)市民	558	87	99	97	118	61	12	17	7	12	21	9	18
		65.4%	108.8%	93.4%	116.9%	111.3%	92.4%	23.1%	106.3%	63.6%	54.5%	20.4%	14.3%	12.4%
H27	イ)移動	71	1	8	6	5	20	1	8	4	4	1	5	8
		7.5%	1.1%	6.0%	6.6%	4.2%	29.4%	2.7%	44.4%	28.6%	16.0%	1.2%	5.6%	4.6%
R2	イ)移動	52	0	5	2	4	11	3	3	1	16	2	1	4
		6.1%	0.0%	4.7%	2.4%	3.8%	16.7%	5.8%	18.8%	9.1%	72.7%	1.9%	1.6%	2.8%
H27	ウ)保内	528	12	37	34	29	22	31	4	6	14	79	81	179
		55.8%	12.6%	27.6%	37.4%	24.2%	32.4%	83.8%	22.2%	42.9%	56.0%	97.5%	90.0%	102.9%
R2	ウ)保内	502	10	37	13	40	26	45	8	7	4	98	63	151
		58.9%	12.5%	34.9%	15.7%	37.7%	39.4%	86.5%	50.0%	63.6%	18.2%	95.1%	100.0%	104.1%

※パーセント＝表 5 利用図書館人数/表 4 市立図書館利用者カード登録者数

表 6. 市内中学生の市立図書館利用者カード登録者数によると、市内中学校で登録率 50%を下回っている学校数は 1 校で増減ありませんが、登録率は増加しています。

表 7. 市内中学生の利用図書館人数では、平成 27 年度調査と令和 2 年度調査を比較して、10%以上増加した箇所を薄い色、減少した箇所を濃い色で着色しています。

表6 市内中学生の市民図書館利用者カード登録者数

調査年度	選択肢	全体	愛宕	八代・双岩	松柏	真穴	保内・青石
H27	ア)はい	607	118	196	87	8	198
		69.6%	84.3%	66.2%	69.6%	28.6%	70.0%
R2		442	78	116	55	11	182
		63.9%	68.4%	58.9%	58.5%	47.8%	68.9%
H27	イ)いいえ	265	22	100	38	20	85
		30.4%	15.7%	33.8%	30.4%	71.4%	30.0%
R2		250	36	81	39	12	82
		36.1%	31.6%	41.1%	41.5%	52.2%	31.1%

表7 市内中学生の利用図書館人数

調査年度	選択肢	全体	愛宕	八代・双岩	松柏	真穴	保内・青石
H27	ア)市民	340	83	134	73	8	42
		56.0%	70.3%	68.4%	83.9%	100.0%	21.2%
R2		225	49	89	45	8	34
		50.9%	62.8%	76.7%	81.8%	72.7%	18.7%
H27	イ)移動	17	2	9	1	3	2
		2.8%	1.7%	4.6%	1.1%	37.5%	1.0%
R2		21	2	1	6	2	10
		4.8%	2.6%	0.9%	10.9%	18.2%	5.5%
H27	ウ)保内	184	13	16	2	1	152
		30.3%	11.0%	8.2%	2.3%	12.5%	76.8%
R2		178	10	16	8	3	141
		40.3%	12.8%	13.8%	14.5%	27.3%	77.5%

※パーセント＝表 6 利用図書館人数/表 7 市立図書館利用者カード登録者数

(3) 施策の方向

7. 保護者に対する読書活動への理解の促進を図ります。
- イ. 家庭での読み聞かせを推進します。
 - ・ 家庭や地域において、子どもが読書に親しむ環境をつくるためにさまざまな機会を通じて、保護者等に読書活動の重要性を啓発します。
 - ・ ブックスタート事業及びセカンドブック事業において、保護者への読み聞かせの楽しさや大切さを伝え、図書館の利用に繋がります。
 - ・ 児童センターや公民館などの各施設と引き続き連携・協力し、本に触れる機会を増やします。
- ウ. 読み聞かせボランティア団体の活動を支援します。
 - ・ 読み聞かせ技術を向上させる研修会の開催や、新たな会員の募集を周知し、読み聞かせボランティア団体の活動を支援します。
- エ. 幼稚園・保育所と市立図書館の連携を深めます。
 - ・ 幼稚園・保育所と市立図書館の連携を深め、読書活動の情報を交換します。
 - ・ 大型絵本の貸出や団体貸出を行います。
- オ. ブックトーク事業や団体貸出制度などの図書館サービスを周知し、小・中学校と市立図書館の連携を深めます。
 - ・ 図書館見学、職場実習などを受け入れます。
 - ・ 図書館が小・中学校へ訪問するみかんぽんぽん文庫や出張図書館を実施し、図書館利用の拡大に努めます。
 - ・ 読み聞かせ・朝読書で小・中学校を訪問し、読書の楽しさを伝えます。
 - ・ 調べ学習などで図書館資料を貸出して、学校を支援します。
- カ. 週に一度も読書をしない小学生の 4.9% (P6)、中学生の 16.9% (P9) が減るように努めます。
 - ・ 子どもの読書週間行事や夏休み読書マラソンなどのイベントで図書館利用の拡大に努めます。
 - ・ 読書を好まない子どもが興味を持つような図書の購入に努めます。
- キ. 障がいのある子どもの読書機会の充実を図ります。
 - ・ 録音図書、点字絵本等の購入や読書バリアフリーに向けた読書環境について補助金等を活用して整備します。
 - ・ 職員が読書バリアフリーに関する研修を受け、資質の向上を図ります。
- ク. 図書館 HP、Facebook(八ちゃんねる)、広報、八西 CATV などを通じて、積極的に図書館情報を発信します。